

イ. 手洗い

1. 目的

- 1) 医療従事者の手指を介した交差感染の予防
- 2) 病原体から医療従事者を守る

2. 種類

- 1) 日常的手洗い・・・一過性菌を洗い流し除菌をすることが目的
液体石鹼と流水による手洗い（スクラブ法）
- 2) 衛生的手洗い・・・一過性菌の殺菌と除菌が目的
消毒剤と流水による手洗い（ラビング法）
- 3) 手術時手洗い・・・一過性菌の殺菌・除菌、常在菌の除菌が目的
*一過性菌とは一時的に付着した菌

3. 手洗いすべき場面

1) 日常的手洗い

- ・出勤時
- ・食事前
- ・トイレの後
- ・見た目に手が汚れている場合
- ・無菌操作を行わない通常の診察や看護の前後
- ・一般清掃の後
- ・手袋をはずした後

2) 衛生的手洗い

- ・患者と密接に接触する診察や処置の前後
 - ・カテーテル処置、気管内吸引、包帯交換等の無菌操作を行う前後
 - ・点滴等、注射薬準備の前後
 - ・血液、体液、排泄物等で汚染された器具、器械を取り扱った後
 - ・汚染リネン、感染症患者のリネンを取り扱った後
 - ・清潔病棟、隔離病室の入退室時
- *有機物が付着した状態での消毒剤の使用は効果が低いため、汚れがある場合はまず石鹼と流水により汚れを十分に落とすことが必要である

3) 手術時手洗い

- ・手術室看護手順に準ずる

4. 手洗い方法

1) スクラブ法 (図1)

- ・石鹼または洗剤が入った消毒液で20秒以上かけて洗い、水道水で洗い流す方法

2) ラビング法 (図2)

- ・擦式手指消毒法

- ・擦式手指消毒法は洗浄効果がないため明らかな汚れがある場合は液体石鹼と流水で先に洗浄する

- ・肉眼的に汚れているか蛋白性物質で汚染されていない場合は擦式手指消毒のみの使用可

- ・通常5～6回繰り返していると手がべたつき汚れが付着しやすくなるため、流水手洗いを入れてべたつきや汚れを落としてから擦式手指消毒法を繰り返すことが肝要である